

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 25日

事業所名 リックラボ

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			十分な訓練スペースの確保ができています。	個別での対応ができる場所の確保をしていく。
	2	職員の配置数は適切である	4	1		利用児童に対して適切な人員確保ができています。	情報を求められる保護者様に対しては開示していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	3	1	身体障害児や車椅子児童は利用していないためバリアフリー化がされていません。	今後身体障害児や車椅子児童が利用する際に備え、バリアフリー化を検討していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			毎日職員会議をしながら振り返りができています。	今後も引き続き行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			アンケート調査の結果を受け止め業務改善につなげている。	今後も定期的アンケートを実施して業務改善に取り組む。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1		まだ実施していない。	このアンケート結果をホームページ等で発信していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		第三者からの評価は受けていないが、他事業所からのアドバイスは取り入れ業務改善につなげている。	外部からの評価を検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			外部への研修の参加をしている。	今後も引き続き参加していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			アセスメントを適切にした上で放課後等デイサービス計画を作成している。	今後も引き続き行っていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			アセスメントシートを作成し統一した評価でアセスメントを行っている。	質の高いアセスメントのためにツールの改善をしていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			活動プログラムの立案を職員で話し合いながら行っている。	今後も引き続き行っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1		子供たちが飽きないようにプログラムを組み立てている。	今後も子供たちが飽きないようなプログラムを組み立てていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1		その日の課題を設定し支援している。	個別指導以外の集団スキルなどを高めていけるようにしていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせながら放課後等デイサービス計画を作成している	5			組み合わせながら作成ができています。	集団に参加できない児童の支援をより充実させていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			児童の来所前に職員間で打ち合わせ、支援の内容など確認ができています。	今後も打ち合わせをしていき質の高い支援を心がけていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			児童が帰所後に職員間で振り返りができています。	今後も引き続き行っていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			放課後等デイサービス計画に基づき記録を取ることができています。	今後も計画に基づいた記録を心がけていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			半年に一回保護者とのモニタリングを行い、見直しをしている。	保護者様の希望がある際には期間などにかかわらず支援計画の見直しを検討していく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせながら支援を行っている	4	1		自立支援と日常生活の支援以外にも創作活動や余暇の提供を組み合わせながら支援を行っています。	地域交流が少ないので今後増やしていけるように努める。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			サービス担当者会議には児童の状況に精通した職員が参画できている。その職員が参画できない際には事前に情	今後もその児童の状況に精通した相応しい者の参画に努める。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5			利用児童がいる学校では学期の初めに行事予定時間割を受け取り、連絡調整についても細かく連携をとりながら行っている。	事業所から積極的に行い、会議や情報共有に努める。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			5	医療ケアの必要な児童がいない。	医療ケア児の受け入れの際に連携ができるように努めている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5			保育園、幼稚園、認定こども園との情報共有をし、相互理解に努めている。	今後も連携を図り、相互の理解に努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	1	2	保育園、幼稚園から小学校低学年までの利用児童しかいないため他のサービスへの移行がまだない。	他の福祉サービスへの移行がまだないが、今後を見据えて連携などを取り組んでいく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4		研修に参加している。	今後も研修に参加していく。必要であれば連携もできるように努める。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4		地域の児童と交流する機会がある。	地域だけでなく、学童や児童館との交流ができるように計画をしていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	3		地域で行われている協議会へ参加している。	今後も引き続き参加をしていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			送迎児の引き継ぎ、電話、メール、LINEなどを通して児童の状況、課題などについて共通理解ができていく。	今後も引き続き行っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4		個別での助言しか行っていない。	ペアレントトレーニングのための研修などを行っていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			契約時に丁寧な説明を行っている。	今後も引き続き行っていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			児童への関わりや家庭での相談に応じて、一緒に考え助言を行っている。	今後も引き続き行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		開催できていない	オンラインでの取り組みなどを検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			苦情の対策のマニュアルを作成。保護者様に苦情の窓口を伝え苦情があった際に対応できるようにしている。	今後も引き続き行っていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	3		活動概要、行事予定など発信できていない。	ホームページ作成、会報の発行を検討していく。
	35	個人情報に十分注意している	5			鍵付きのキャビネットで個人情報ファイルを管理している。	今後も引き続き行っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			児童に対してはイラストや写真の提示をし、保護者に対しても口頭での説明・文章での通達	今後も引き続き行っていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3		事業所の行事に地域住民を招待することができていない。	事業所の行事に地域住民を招待することができるように努める。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	4		マニュアルを作成し緊急時の対策に取り組んでいる。	作成したマニュアルを保護者にも周知してもらえるように努める。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	2		定期的に避難訓練を行っている。	今後も引き続き行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1		定期的に虐待防止研修を受けている。	今後も引き続き行っていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			5	現在身体拘束が想定される児童がいない。	身体拘束が想定される児童に対しては支援計画にも記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2		医師からの指示書に基づくアレルギーがある児童がいない。	今後アレルギーがある児童の通所がある際には医師の指示書に基づく対応を検討していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	3		実際に起こったケース、想定される事例をもとに会議で共有を行っている。	今後も引き続き行っていく。